

*Bull. Mukogawa Women's Univ. Nat. Sci.*, **56**, 65-71 (2008)  
武庫川女子大紀要(自然科学)

## 洛中洛外図屏風に見る芝居小屋の研究

古田 宣子\*, 森 幹雄\*\*

\* (武庫川女子大学大学院生活環境学研究科生活環境学専攻)

\*\* (武庫川女子大学生生活環境学部生活環境学科)

## Study of playhouse in RAKUTYU-RAKUGAI folding screen

Nobuko Furuta \*, Mikio Mori \*\*

\* *Human Environmental Sciences Major,  
Graduate School of Human Environmental Sciences,  
Mukogawa Women's University, Nishinomiya 663-8558, Japan*

\*\* *Department of Human Environmental Sciences,  
School of Human Environmental Sciences,  
Mukogawa Women's University, Nishinomiya 663-8558, Japan*

The European style theaters were taken since Meiji Restoration. And the proscenium arch had been set up in Japan. However, the spectators watch the stage from the picture frame in those theater. Then performing arts are confronted with spectators, and it appreciates. Spectator's eyes doesn't intersect and there is no participation in the play space. It tends to separate the performer and the spectator. Then, how about the theater in former Japan? In this study, the playhouse that had been drawn in RAKUTYU-RAKUGAI folding screen was analyzed, and verified.

### 緒 言

日本では明治維新以降、西洋式劇場を輸入した。その中で、舞台前部は額縁のようなプロセニウムアーチで囲まれ、その奥に演技のための空間があるプロセニウムステージが普及し、広く定着した。このプロセニウムステージでは、演技以外にも多種多様な舞台美術や仕掛け、ハイテクな機械を用いて人々の目や心を奪う。しかし一方で、観客は額縁から舞台を覗き見る。そして、観客はみんな平等に整然と舞台の方向を向いて座らされる。あくまで独立した舞台芸術と観客各個人が対置し、鑑賞する。そこには、観客同士の視線の交差もなければ、演劇空間への参加もない<sup>1)</sup>。演者と観客を分離させ、一体感を喪失しがちである。このことは、現代の劇場や演劇の活気の足りなさにつながっている。

では、明治維新以前に現代のプロセニウム劇場

が確立されるまでの、芝居空間はどうであったのだろうか。舞台と観客席、芝居と観客を截然と区別せず、ある部分では運命共同体でもあるかのように統一体を形造ったことは、江戸歌舞伎の最大の特徴である。舞台というよりは、観客席に向かって配置された桟敷席や、舞台の下手奥、橋掛かりの後方に作られた桟敷のような形の羅漢台は、観客同士のコミュニケーションによって舞台から得た感動を直に確かめ合い、自分たちを取り巻く環境との照合を行い、その感動をより大きなものとする意味を持っていた。同時に、空間構造の複雑さは舞台に対する席による多様な視線と、それぞれの観客の好みによっての楽しみ方を提供していた<sup>2)</sup>。本研究は、洛中洛外図展<sup>\*)注1</sup>の資料を基に洛中洛外図に描かれた芝居小屋を考察し、現代の劇場に足りない賑わいと舞台形式との関係を検証しようとするものである。

Table 1. 洛中洛外図屏風に見る芝居小屋

No	屏風名称	所蔵	年代	位置	舞台		舞台屋根	橋掛り	地謡座	後座	鏡板	棧敷席	堀	備考	
					方位	位置									
1	洛中洛外図(歴博甲本) (町田家旧蔵本) (六曲一雙)	国立歴史 民族博物館	1525～1536 (最古) 16世紀	三十三間堂南	西	奥	入母屋妻入	舞台左	×	○	×	×	板堀	七条河原に於ける勸進猿楽能 ・重文	
2	洛中洛外図(東博模本) (十一幅)	東京国立 博物館	1539以降 16世紀	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	歌舞伎舞台は見られない	
3	洛中洛外図(歴博乙本) (六曲一雙)	国立歴史 民族博物館	16世紀	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	歌舞伎舞台は見られない ・重文 景観は上杉本に先行	
4	洛中洛外図(上杉家本) (六曲一雙)	米沢市	1575 16世紀	千本閻魔堂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(大念仏狂言「閻魔の庁」) ・国宝 狩野永徳作 歌舞伎舞台は見られない	
5	聚楽第図(六曲一雙)	三井文庫	16世紀	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
6	洛中洛外図 (六曲一雙)	京都国立 博物館	1607以降 17世紀	北野社の東空地 歌舞伎小屋	北	奥	切妻妻入	舞台右	×	○	不明	×	竹+席	歌舞伎興行・演目「茶屋遊び」	
7	洛中洛外図 (六曲一雙)	高山・勝興寺	1612以降 17世紀	紫しん殿前の庭	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(舞楽) ・重文 京博本の流れだが、北野の歌舞伎はない	
8	洛中洛外図 (六曲一雙)	出光美術館	17世紀	北野社の東空地 歌舞伎小屋	北	奥	入母屋妻入	不明	×	○	不明	○	土堀 竹	歌舞伎興行・演目「茶屋遊び」 棧敷席	
9	洛中洛外図 (六曲一雙)	堺市立 博物館	17世紀	五条橋西詰(南) 歌舞伎小屋	南	奥	切妻妻入	なし	×	○	○板	×	席堀	京博本・勝興寺の流れ 歌舞伎興行・演目「茶屋遊び」	
				五条橋東詰(北)	北	奥	切妻妻入	なし	×	○	○板	×	席堀	小屋掛興行/四条河原は閑散としている。	
				北野の歌舞伎	北	奥	切妻妻入	舞台左	×	○	○板	×	席堀	歌舞伎興行・演目「念仏踊り」	
10	洛中洛外図 (六曲一雙)	大阪市立 美術館	17世紀	四条河原東(北)	北	奥	切妻妻入	不明	×	○	不明	×	席堀	能・四条河原はにぎやかで小屋が立ち並ぶ 曲芸 歌舞伎踊り 三味線の一座が興行中/小屋掛興行	
				四条河原西(北)	北	奥	切妻妻入	不明	×	不明	不明	×	席堀		
				四条河原西(南)	北	奥	切妻妻入	不明	×	×	○	×	席堀		
				五条橋東詰(北)	北	奥	切妻妻入	舞台左	×	○	○板	×	席堀		
11	洛中洛外図(萬野A本) (六曲一雙)	萬野美術館	1625以降 17世紀	四条橋東詰(北)	不明	不明	不明	舞台右	○	○	×	×	竹+席		
12	洛中洛外図 (六曲一雙)	神戸市立 博物館	17世紀	五条橋東詰(北)	北	奥	切妻妻入	不明	×	○	○板	×	席堀	小屋興行中 小屋興行中 小屋興行中 小屋興行中 壬生狂言・屋外で開催	
				五条橋西詰(南)	北	奥	切妻妻入	なし	×	不明	×	×	席堀		
				四条小橋東詰(北)	北	奥	切妻妻入	左	×	○	○板	×	席堀		
				四条小橋東詰(南)	不明	不明	不明	不明	×	○	○板	×	席堀		
13	洛中洛外図(舟木本) (六曲一雙)	東京国立 博物館	1615～24頃 17世紀	四条河原東(南)	東	左	切妻平入	なし	×	—	—	×	—	人形浄瑠璃「山中常盤」 人形浄瑠璃「阿弥陀の陶割」 女歌舞伎・二階棧敷席 二階棧敷席 鴨川を徒歩で渉る	
				四条河原東(南)	東	左	切妻平入	なし	—	—	—	×	竹+席		
				四条河原東(北)	北	奥	入母屋妻入	左	○	○	×	○	竹+席		
				四条河原西(北)	北	奥	入母屋妻入	不明	○	不明	○	○	—		
14	洛中洛外図 (六曲一雙)	高津古文化 会館	17世紀	五条橋東詰(北)	西	奥	入母屋平入	—	—	○	×	×	×	四条河原に芸能関係の小屋は見られない 休演	
				五条橋西詰(南)	南	奥	入母屋平入	—	—	不明	×	×	×		
15	洛中洛外図(池田本) (六曲一雙)	林原美術館	1615～23頃 17世紀	四条小橋西詰(南) 四条小橋西詰(北) 紵の河原・東	南 北 東	奥 奥 奥	切妻妻入 切妻妻入 切妻妻入	左 左 左	×	○ ○ ○	不明 不明 不明	○ ×	竹+席 竹+席 竹+席	曲芸・蜘蛛舞実演・棧敷席 歌舞伎の檣 歌舞伎「茶屋遊び」/北 檣・猿が踊っている/南	・重文
16	洛中洛外図 (六曲一雙)	京都個人蔵	17世紀	五条橋東詰(北) 北野の歌舞伎	北 北	奥 奥	切妻妻入 切妻妻入	不明 右	×	不明 ○	×	不明 ○	不明 土堀 席	舞台周りの客席に屋根が架けられている 入口が土堀と席の2重になっている。 棧敷席がある。	
17	洛中洛外図(萬野B本) (六曲一雙)	萬野美術館		寛永期 17世紀	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	歌舞伎小屋はなく、もはや北野での阿国の興行の記憶も薄れかけた頃の制作か
18	洛中洛外図 (六曲一雙)	佐渡・妙法寺	17世紀	五条橋東詰(北) 北野社近く	北 北	奥 奥	切妻 切妻妻入	不明 後	不明 ×	不明 ○	×	×	席堀 席堀	席張りの檣・蜘蛛舞の実演中 歌舞伎小屋「茶屋遊び」・屋根付棧敷席 檣の「天下第一」対馬守」は阿国歌舞伎を示す	
19	洛中洛外図 (六曲一雙)	サントリー 美術館	寛永末 17世紀	四条河原中島	東	奥	切妻	不明	不明	不明	×	×	竹+席	舞台周りの客席に屋根が架けられている 寛永3年の後水尾天皇の二条城行幸描写 これ以降の洛中洛外図は寛永行幸を描写	
20	洛中洛外図(歴博C本) (六曲一雙)	国立歴史 民族博物館	17世紀	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	芝居小屋の描写はない 二条城行幸が主景観	
21	洛中洛外図 (六曲屏風一雙)・小型	—	17世紀	四条橋東詰 (南・北)	北	奥	切妻妻入	後	×	○	○幕	×	竹+席	歌舞伎小屋「茶屋遊び」 人形浄瑠璃	
22	洛中洛外図(歴博D本) (六曲一雙)	国立歴史 民族博物館	17世紀	四条橋東詰 (南・北)	北 南	奥 左	切妻妻入 切妻妻入	後 後	×	○ ×	×	×	竹+席 竹+席	歌舞伎小屋「茶屋遊び」・入口が2重堀 人形浄瑠璃・入口が2重堀 21と同じ粉本を基に制作された	
23	洛中洛外図 (六曲一雙)	細見美術 財団	寛永期 17世紀	四条橋東詰	南	奥	切妻妻入	左	○	○	○	○	竹+席	能舞台・演目「葵の上」・入口が2重堀 2階屋根付棧敷席・入口前に茶店	
24	洛中洛外図 (六曲一雙)	京都民芸館	—	五条橋東詰(北) 四条橋西詰(南)	北 南	奥 奥	切妻妻入 切妻妻入	不明 不明	×	不明 ○	×	×	板堀 席堀	檣幕に「さとしま」 四条の中島、東岸には小屋はない	
25	洛中洛外図(歴博E本) (六曲一雙)	国立歴史 民族博物館	18世紀	祇園社西 (四条河原)	東	奥	切妻妻入	右	○	○	不明	○	板堀	野郎歌舞伎の舞台・屋根付棧敷席	
26	洛中洛外図(六曲一雙)	—	17世紀末期	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
27	洛中洛外図 (六曲一雙)	京都・寂光院	17世紀末期	四条河原東(南)	南	奥	切妻平入	不明	不明	不明	不明	不明	不明	四条の河原の檣は整理され、6座の芝居 小屋は、完全に鴨川の東岸に移された 客席を覆う天幕が見られる。(竹+席?)	
				四条河原東(北)	北	奥	切妻妻入	不明	不明	不明	不明	不明	不明		
				四条河原東(北)	北	奥	切妻妻入	不明	不明	不明	不明	不明	不明		
				四条河原東(北)	北	奥	切妻妻入	不明	不明	不明	不明	不明	不明		
28	洛中洛外図 (六曲一雙)	京都国立 博物館	17世紀	四条河原東(南)	南	奥	切妻妻入	左	後部	○	○	竹+席 席	入口が2重堀・細見本に近い 2階屋根付棧敷席・入口前に茶店		

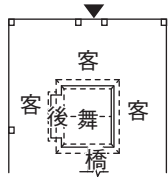


Fig. 1  
【1. 歴博甲本】

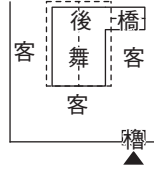


Fig. 2  
【6. 京都国立博物館】

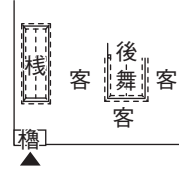


Fig. 3  
【8. 出光美術館】

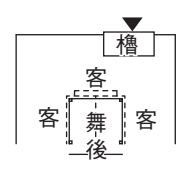


Fig. 4  
【9-1. 堺市立博物館】  
五条橋西詰

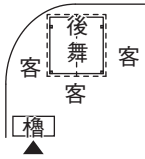


Fig. 5  
【9-2. 堺市立博物館】  
五条橋東詰

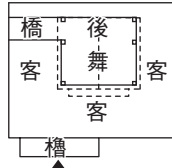


Fig. 6  
【9-3. 堺市立博物館】  
北野の歌舞伎



Fig. 7  
【10-1. 大阪市立美術館】  
四条河原東北

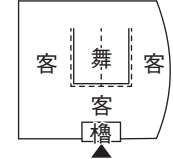


Fig. 8  
【10-2. 大阪市立美術館】  
四条河原西北

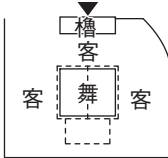


Fig. 9  
【10-3. 大阪市立美術館】  
四条河原西南

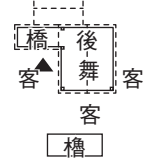


Fig. 10  
【10-4. 大阪市立美術館】  
五条橋東詰北



Fig. 11  
【11. 萬野美術館 A 本】

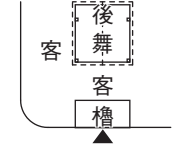


Fig. 12  
【12-1. 神戸市立博物館】  
五条橋東詰北

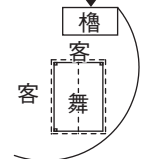


Fig. 13  
【12-2. 神戸市立博物館】  
五条橋西詰南

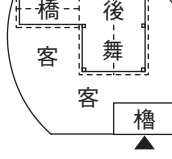


Fig. 14  
【12-3. 神戸市立博物館】  
四条小橋東詰北

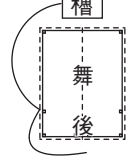


Fig. 15  
【12-4. 神戸市立博物館】  
四条小橋東詰南

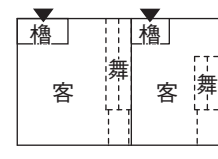


Fig. 16  
【13-1. 東京国立博物館】  
(舟木本) 四条河原西

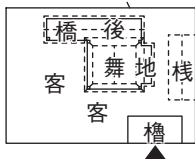


Fig. 17  
【13-2. 東京国立博物館】  
(舟木本) 四条河原東北

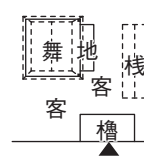


Fig. 18  
【13-3. 東京国立博物館】  
(舟木本) 四条河原東北

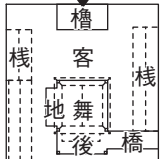


Fig. 19  
【13-4. 東京国立博物館】  
(舟木本) 四条河原西南

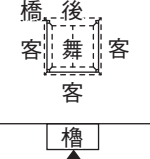


Fig. 20  
【13-5. 東京国立博物館】  
(舟木本) 五条橋東詰北

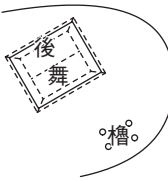


Fig. 21  
【14-1. 高津古文化会館】  
五条橋東詰北

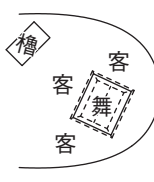


Fig. 22  
【14-2. 高津古文化会館】  
五条橋西詰南

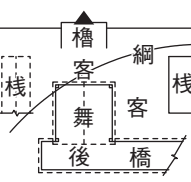


Fig. 23  
【15-1. 林原美術館 重文】  
(池田本) 四条小橋西詰南

凡例	
舞：舞台	槽：槽
客：客席	棧：棧敷席
地：地謡座	後：後座
橋：橋掛	---：屋根伏

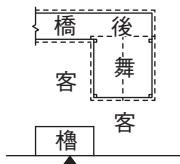


Fig. 24 【15-2. 林原美術館 重文】  
(池田本) 四条小橋西詰北

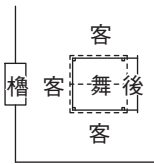


Fig. 25 【15-4. 林原美術館 重文】  
(池田本) 糺河原東北

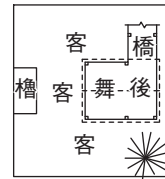


Fig. 26 【15-4. 林原美術館 重文】  
(池田本) 糺河原東南

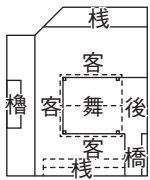


Fig. 27 【16. 京都個人蔵】  
北野社近く

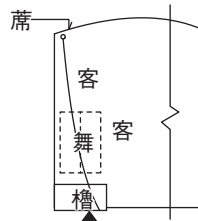


Fig. 28 【18. 佐渡 妙法寺】  
五条橋東詰北

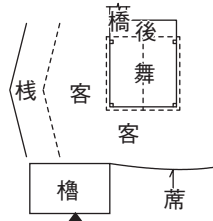


Fig. 29 【18. 佐渡 妙法寺】  
北野社近く

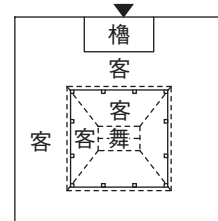


Fig. 30 【19. サントリー美術館】  
四条河原中島

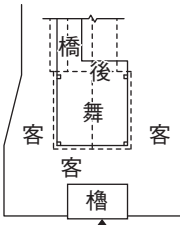


Fig. 31 【21-1】  
四条河原東詰北

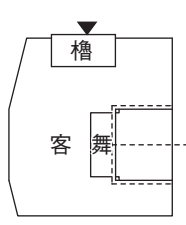


Fig. 32 【21-2】  
四条橋東詰南

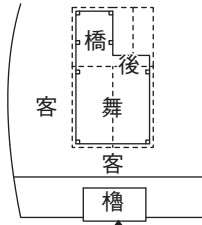


Fig. 33 【22-1. 国立歴史民族博物館】  
四条橋東詰北

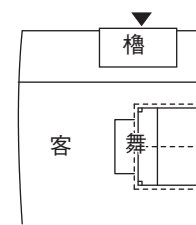


Fig. 34 【22-2. 国立歴史民族博物館】  
四条橋東詰南

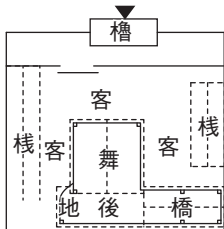


Fig. 35 【23. 細見美術財団】  
四条橋東詰

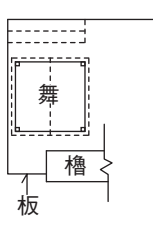


Fig. 36 【24-1. 京都民芸館】  
四条橋西詰南

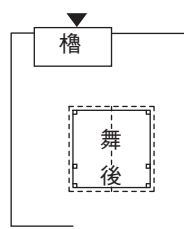


Fig. 37 【24-2. 京都民芸館】  
四条橋西詰

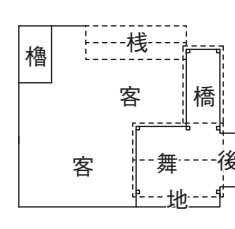


Fig. 38 【25. 国立歴史民族博物館】  
祇園社西

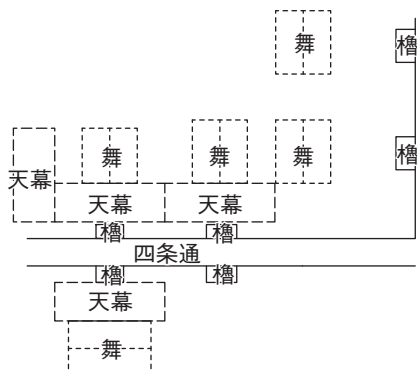


Fig. 39 【27. 京都 寂光院】  
四条河原東

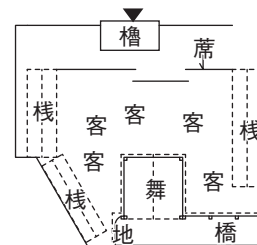


Fig. 40 【28. 京都国立博物館】  
四条河原東南



凡例	
舞：舞台	櫓：櫓
客：客席	棧：棧敷席
地：地謡座	後：後座
橋：橋掛	---：屋根伏

はじめに、洛中洛外図 28 点を整理し、芝居小屋の特徴を Table 1. にまとめた。次いで、その芝居小屋を配置図に図面化した。(Fig1.~40.)

### 能舞台の概要

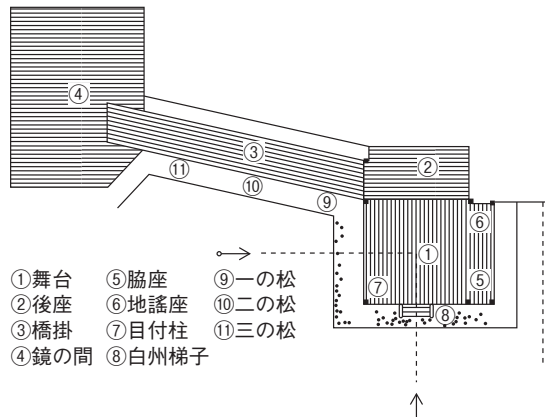


Fig.41

現在の能舞台は、基本的には次のような三つの構成要素から成り立っている (Fig. 41)。

1. 三間四方(約 5.5m × 5.5m)の本舞台と付随する地謡座、後座。
2. 橋掛り。
3. 正面奥の松羽目と破風屋根を支える 4 本柱<sup>3)</sup>。  
観客は矢印の二方向から見るようになっている。

### 考 察

洛中洛外図屏風に見られる芝居小屋を Table. 1 のように整理した。洛中洛外図屏風 28 のうち、20 (71.4%) に芝居小屋が描かれており当時の人々は芝居にとっても興味をもっていたと考えられる。

洛中洛外図屏風から抽出された芝居小屋 47 件(壬生寺の屋外興行は含まない)を Fig. 1~40 に図式化し、Table. 2~3 のように興行内容と舞台形式の関係を整理した。

Table 2.

興行内容	舞台形式	数	割合
能	能舞台形式	3	6.40%
人形浄瑠璃	人形浄瑠璃形式	4	8.50%
曲芸	能舞台形式	3	6.40%
歌舞伎	能舞台形式	13	27.70%
その他	能舞台形式	1	2.10%
不明	能舞台形式	23	48.90%
計		47	100%

Table 3.

舞台・客席の形式	数	割合
能舞台型	37	78.70%
人形浄瑠璃型	4	8.50%
不明	6	12.80%
計	47	100%

これにより、歌舞伎・能・曲芸は能舞台形式の舞台で演じられていたことがわかる。

### 1. 舞台方位と舞台位置の関係

Table 4.

舞台方位	数	割合	舞台位置	数	割合
南	11	23.40%	奥	38	80.90%
北	20	42.60%	左	4	8.50%
東	7	14.90%	手前	1	2.10%
西	3	6.40%	不明	4	8.50%
不明	6	12.80%			
計	47	100%	計	47	100%

北に舞台を設ける事は、舞台に日光が当たるため、観客にとっては見やすいと考えられる。しかし、舞台が北に固定されているわけではない。むしろ、通りに対して奥に舞台を設けるのがほとんどである(80.9%)。また、敷地に対して舞台位置が左に設けられているのは、全て人形浄瑠璃である(4/4)。

### 2. 舞台屋根

Table 5.

屋根の形状	数	割合	正面の向き	数	割合
入母屋	8	17%	平入	2	4.30%
			妻入	6	12.80%
切妻	36	76.60%	平入	5	10.60%
			妻入	29	61.70%
			不明	2	4.30%
不明	3	6.40%		3	6.40%
計	47	100%		47	100%

中期ごろまでは切妻屋根と入母屋屋根が混在しているが、中期から後期にかけては切妻屋根のみになっている。西本願寺の北能舞台(1581 年)、南能舞台(1694 年)を Table 1. の年代に当てはめてみると、同じことが言える。しかしながら、現代の能舞台は入母屋屋根である。



### 3. 橋掛

Table 6.

橋掛りの有無	数	割合	位置	数	割合
あり	19	38.30%	後	3	15.80%
			左	12	63.20%
			右	4	21.10%
なし	7	14.80%			
不明	21	44.70%			
計	47	100%			

橋掛は舞台の左が6割強を占めるが、後ろ右も15～21%の例があり、必ずしも現代の能舞台のように左と決まっているわけではない。また、後座に橋掛りがついていることが標準と考えられているが、主舞台に直接取り付いている例がある。

(Fig. 25)

### 4. 地謡座

Table 7.

地謡座の有無	数	割合	備考
あり	7	14.90%	舞台後部にあり - 1
なし	30	63.80%	
不明	10	21.30%	
計	47	100%	

地謡座が描かれていた例は、約15%にすぎない。必ずしも舞台から飛び出した形での地謡座が確立していたわけではない。

### 5. 後座

後座は47件中、27件の小屋で見られ、4件で見られない。(47件中、16件の小屋は後座があるか不明。)不明を除く小屋のうち、87.1%に後座がある。

### 6. 鏡板

Table 8.

鏡板の有無	数	割合	鏡板の種類	数	割合
あり	19	40.40%	板	7	38.90%
			幕	5	27.70%
			屏風	3	16.70%
			不明	3	16.70%
なし	16	34.10%			
不明	13	27.60%			
計	47	100%			100%

前期は板が中心となっており、中期より幕が主流である。また、中期から後期にかけて屏風も見られる。

### 7. 客席の形状

客席の外形が曲線を持つ小屋は47件中11件(23.4%)ある。街並の中に建つ小屋は立地上、直

線の矩形で構成されるが、河原や広場に建つ小屋では、舞台と客席を近づけるために曲線で構成されていると考えられる。

### 8. 棧敷席

Table 9.

棧敷席の有無	数	割合	備考
あり	10	21.30%	屋根付棧敷席 - 7
なし	29	61.70%	
不明	8	17%	
計	47	100%	

初期において、棧敷席は北野社の芝居小屋のみにある(Fig. 3)。北野社の芝居小屋は洛中洛外図屏風に4件描かれている内、3件に棧敷席が見られる。また、五条河原の芝居小屋に棧敷席は見られない。四条河原の芝居小屋では28件中6件に棧敷席が見られる。人形浄瑠璃における芝居小屋には棧敷席は見られない。

### 9. 入り口の形態

入り口の形態は、一重が47件中43件(91.5%)で二重は4件(8.5%)である。入り口が二重になっている形態が、後期より見られる。料金を支払わなければ、中を見せない事が徹底されてきた。しかし、現在のロビーやホワイエといった休憩場所程広い空間は確保されていない。

### 10. 客席の屋根

客席に屋根が架けられている絵が2つあった。Fig.32【19. サントリー美術館】に描かれた小屋(四条河原中島)は、舞台周りの客席と舞台は同じ一つの屋根が架けられている。また、Fig.42【27. 京都・寂光院】に描かれている小屋(四条河原東)は舞台の屋根とは別に客席は竹と蓆でできた天幕で覆われている。こうした例は、屋外の芝居から屋内の芝居への過渡期の様子ではないだろうか。仮設の屋根は、劇場の様子を伺わせる。

現在も、群馬県勢多郡赤城村に上三原田の舞台の例がある。

## まとめ

洛中洛外図にみられる芝居小屋では、橋掛り、地謡座、後座、鏡板などは、常に固定されているわけではない。小屋の場所や興行内容によって、舞台機能の位置が変化している。これによって、舞台と客席の関係はより近づくことができる。しかし、現代の劇場では、劇場という箱の中に主舞

台をはじめとする舞台機能や、客席があらかじめ固定されている。より舞台と客席の関係を近づけ、演者と観客の一体感を出すために、現代の劇場においても、その時々公演によって機能を変化させる事を考えるべきではないだろうか。

- 2) 服部幸雄：大いなる小屋 近代都市の祝祭空間  
平凡社 1986年 p8～12
- 3) 小石新八：劇場空間の図式的考察－その2－日本の劇場的空間：武蔵野美術大学研究紀要  
1991/03(通号21) p.39～48

## 文 献

- 1) 山崎泰孝：公共劇場における建築家の責任：建築雑誌 vol.109, No.1355 1994年3月号 p50～51

## 脚 注

- 注1) 1994年に国立京都博物館で開催された特別展覧会「都の形象－洛中洛外の世界」